

「持続可能な公共交通をめざして」

～公共交通の利用促進と地域内交通の整備に関する手引き 概要版～

普段の生活で使う交通について、不便と感じていませんか？

運転免許を返納したいけど、その後の足が不安…

バスの運行本数が少なくて不便…

他市のようにコミュニティバスやデマンドタクシーは走らないの？

バス停が遠くて買い物やお出掛けが大変…

誰でも利用しやすいバリアフリーのバスやタクシーを増やしてほしい



平塚市に寄せられる交通の課題や困りごとは、住んでいる地域や生活スタイルなどによって様々なケースがあります。

皆様の交通に関する困りごとを解決するためには、市内を網羅しているバスをはじめとする様々な交通を工夫しながら利用することで解決する場合があります。

本市では、交通の困りごとの解決に向けてヒントとなるよう手引きとしてまとめました。このリーフレットは概要版ですので、冊子版もご覧いただき、是非ご活用ください。

身近な地域の交通について、改めて考えてみましょう！

1 交通の困りごとと解決手順

STEP 0 地域＋市

バスやタクシーなど、既存の公共交通を活用した場合の利便性や交通事業者の取組を把握
 (例)バス停や駅は近くにあるが、バスやタクシーが割高と感じ利用しづらい

2 既存の公共交通の利用促進・・・P3

STEP 1 地域

地域住民グループ(単位自治会等の概ね5世帯以上のグループ)で交通の困りごとを話し合い、市と相談

STEP 2 地域＋市＋交通事業者

(一般旅客自動車運送事業)

需要予測など地域のニーズを把握し、路線バスの再編などで解決できるか検討
 (例)既存のバス停の位置や運行ルートを変更してほしい

3 バス路線の再編・・・P4

STEP 3 地域＋市＋交通事業者

コミュニティ交通の導入で解決できるか検討

(例)地域全体が駅やバス停から遠く、路線バス以外の交通手段を確保したい

4 コミュニティ交通・・・P4

4-1 コミュニティバス・・・P5

4-2 乗合タクシー・・・P6

4-3 デマンド交通・・・P6

※導入エリアの走行環境や利用者ニーズ等を踏まえて検討

実証運行の実施

運行継続条件(〇年運行し、目標利用者数〇人以上等)が達成できるか実証する

本格運行

運行継続条件を達成した場合は本格運行を開始する。達成できない場合は運行を終了し、別の手段を検討する

STEP 4 地域＋市

コミュニティ交通(交通事業者以外での運行)やその他の移動手段で解決できるか検討
 (例)地域内で短い距離を移動するための移動手段が欲しい

電動アシスト自転車、電動車いす(シニアカー) 5 グリーンスローモビリティ・・・P7

(参考)地域の状況によっては、福祉に関連する地域内交通を実施

住民主体の地域内移送支援・・・P7

解決できない場合は、再度STEP 1から再検討

※対象となる地域を拡大又は縮小することで解決できないか地域住民グループの形成から再検討する

2 既存の公共交通の利用促進

- 既存の公共交通の利用方法の見直しや交通事業者の取組で解決できるかもしれませんが、全国的に、利用者の減少や運転手不足、新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛などにより、公共交通の維持は厳しい状況になっています。



現在の平塚市の充実した公共交通を将来にわたって維持するためには、多くの方々が継続して利用し続けていくことが大切です。

- 自家用車の維持には、一日当たり2,000円以上必要となる計算例があります。頻度や距離によっては、自家用車より公共交通の方がお得に利用できるかもしれません。

＜公共交通料金との比較＞（令和5年11月現在の料金）

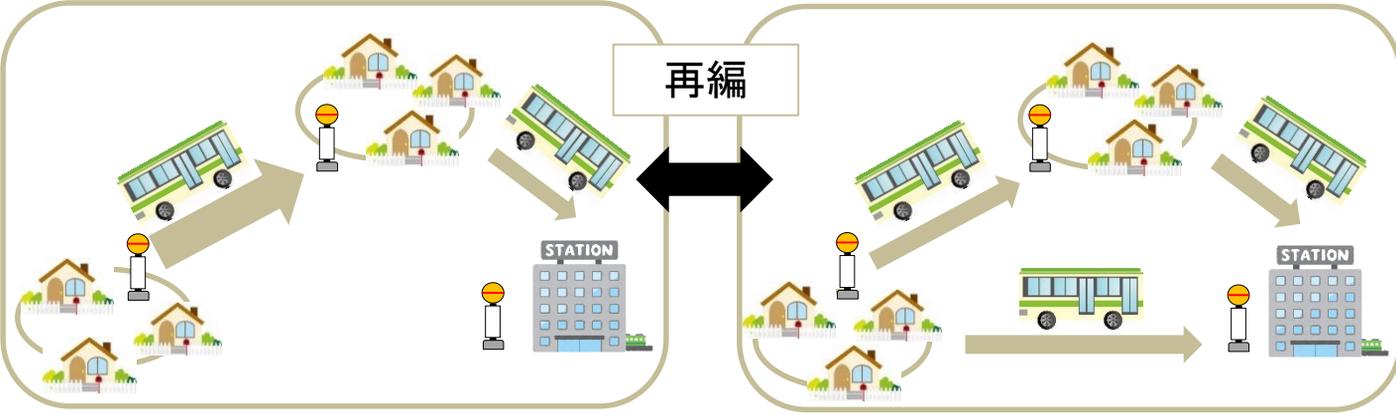
平塚駅からのバス料金（現金）		平塚市のタクシー料金（目安）	
本厚木駅まで	610円	初乗1.091kmまで500円（247mまでごとに100円加算）	
市民病院まで	240円	平塚駅から半径1.091kmまでの圏域内の施設例	平塚市役所、福祉会館
高村団地まで	290円	平塚駅から半径2kmまでの圏域内の施設例	美術館、平塚警察署 総合公園の中央入り口付近 JR東海道線南側の大部分
西海岸まで	210円		

- ・バスやタクシーなどの交通事業者は、利便性向上に向けた取組を進めています。

	取組	内容
バス	サイクル&バスライド	バス停近くに駐輪場を整備します。自転車からバスへの乗り継ぎにご利用ください
	バスロケーションシステム	スマホでバスの接近情報や到着見込時刻がわかります
	デジタルサイネージ	多言語での検索もできるデジタル時刻表案内システム
	各種割引制度	「かなちゃん手形」「環境定期券」「小児IC運賃の一律50円化」「神奈中オフピークチケット」など割引制度をご存知ですか
	ノンステップバス	誰もが利用しやすい「楽に乗り降りできるバス」
タクシー	ユニバーサルデザインタクシー	誰もが利用しやすい「みんなにやさしい新しいタクシー車両」
	ワンコインタクシー	市内タクシーは初乗り500円！「チョイ乗り」にどうぞ

3 バス路線の再編

・既存の路線バスの走行ルートや停留所の位置を見直し、地域にとってより利便性が高くなるようバス事業者と調整します。

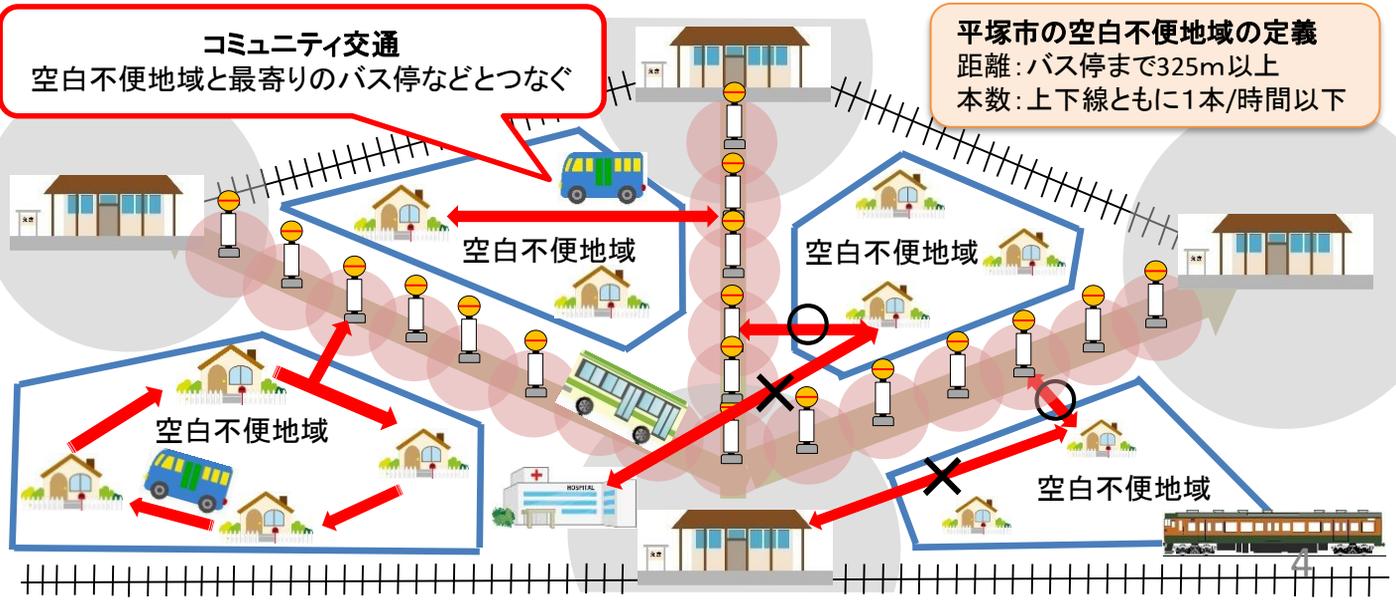


実施	実施主体	地域住民グループ(自治会等が中心となって要望をまとめる)
	使用車両	バス事業者の大型バス車両
	利用時間	定時運行、状況に応じて見直し
	利用料金	バス運賃
例	概要	地域全体にとって利便性が高いルートや場所を検討する市が調整役を担う

4 コミュニティ交通

●空白不便地域に対し、路線バスを補完する交通としてコミュニティ交通の導入を検討していきます

本市が考える「コミュニティ交通」の定義
空白不便地域に対し、路線バスを補完する交通で、「地域内を巡回し、最寄りのバス停などをつなぐことにより、地域の円滑な移動手段を確保する交通」

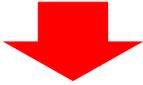


コミュニティ交通のイメージ

離れた地域にある大きな病院
や駅に直接行くコミュニティバス
が欲しい



運賃100円で市内循環す
るコミュニティバスが欲しい



既存のバスと競合するコミュニティバスは、
事業者の経営を圧迫し、撤退してしまう恐
れがあります。

あまりにも利用者が少なかったり、運賃
が安すぎたりして採算が合わない場合
は、せっかく導入しても持続が難しくな
ります。

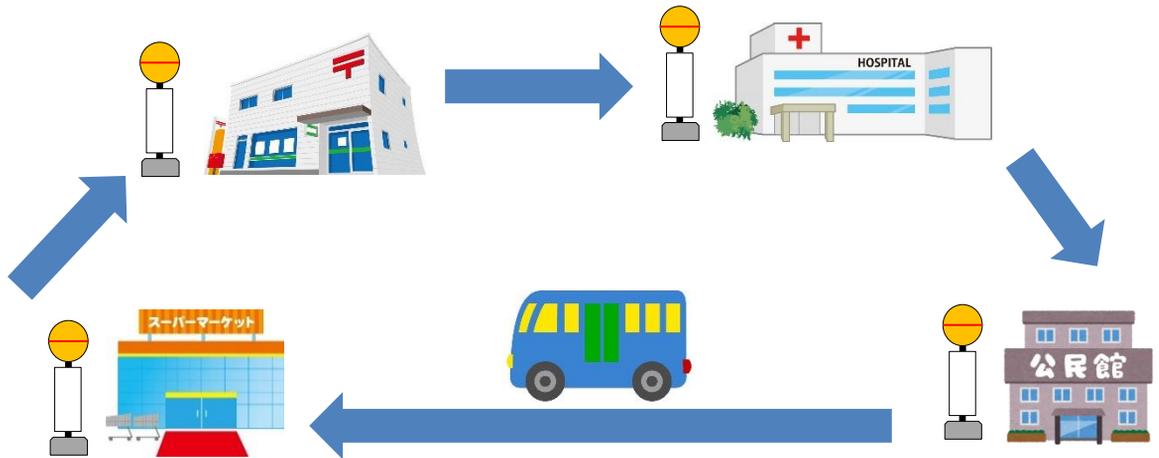
●コミュニティ交通の導入の流れ

地域住民グループが主体となり、運行計画を作成します。

運行継続条件（〇年運行し、目標利用者数〇人以上等）を達成できるか実証実験を
行い、継続できるか判断した上で本格運行となります。

4-1 コミュニティバス

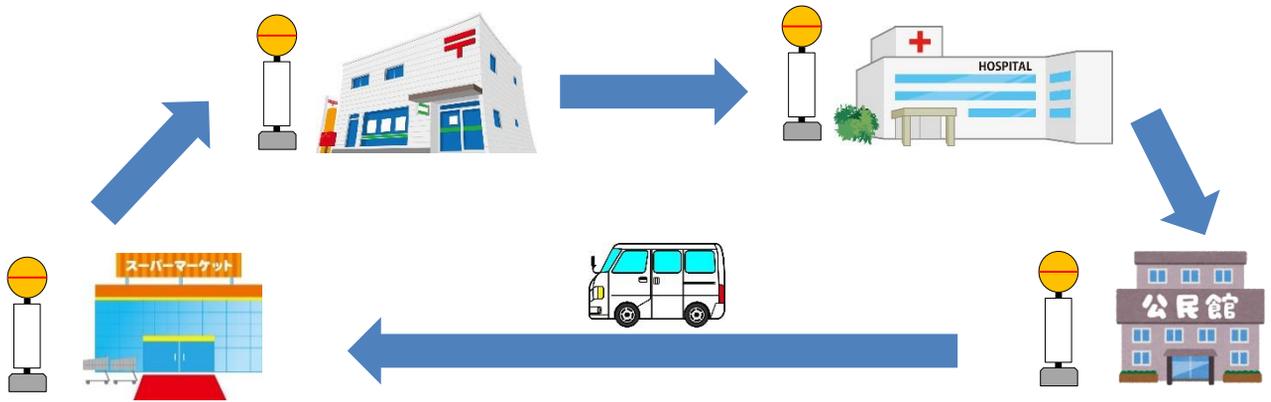
・地域内の拠点を小型のバスが定時に巡回します。



実 施 例	実 施 主 体	地域住民グループ（運行はバス事業者に委託）
	使 用 車 両	小型のバス 約30～35人（座席は約10席）程度
	利 用 時 間	定時運行
	利 用 料 金	路線バスと同程度（採算に合わせて設定する）
	概 要	路線バスと同様に、地域内にコミュニティバスのバス停を設置し、 定時にバスを運行する

4-2 乗合タクシー

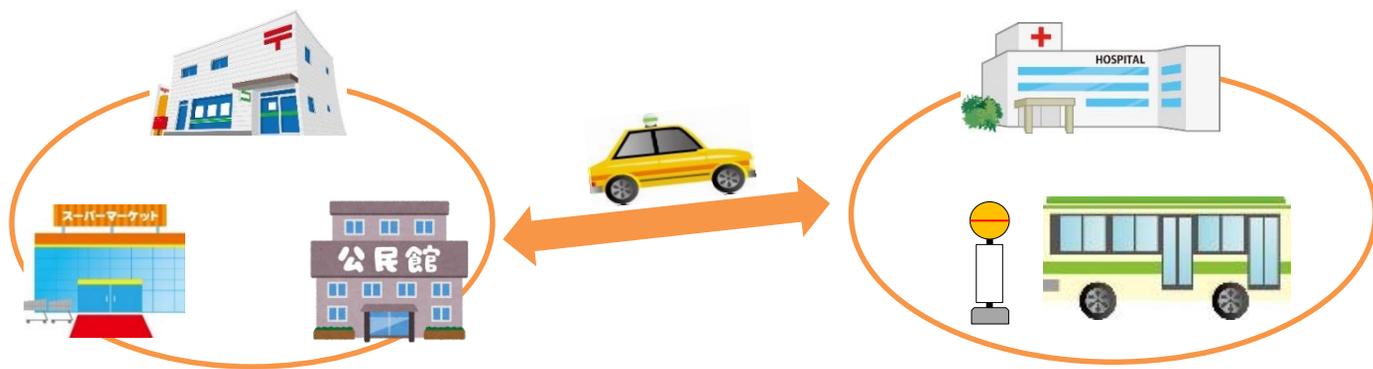
・小型バスの乗車人数ほどの需要が見込めない場合等に、地域内の拠点を大型の乗用車が定時に巡回します



実 施 例	実 施 主 体	地域住民グループ(運行はタクシー事業者に委託)
	使 用 車 両	9人乗りのジャンボタクシー等の大型の乗用車
	利 用 時 間	定時運行
	利 用 料 金	路線バスと同程度(採算に合わせて設定する)
	概 要	コミュニティバスと同様の取組で、比較的に乗車人数の少ない場合に大型乗用車を巡回させる

4-3 デマンド交通

・利用者の要求に応じて、定時に、地域と目的地を定路線で結ぶ小型の車両を運行します



実 施 例	実 施 主 体	市(運行はタクシー事業者に委託)
	使 用 車 両	タクシーなどの小型の車両(定員3~4名)、乗り合い
	利 用 時 間	定時運行(予約が入らないと運行しない)
	利 用 料 金	路線バスと同程度(採算に合わせて設定する)
	概 要	人数としては多くないが、決まった時間に高い頻度で目的地に行きたい人が存在する場合に、予約した時間、場所で利用できる車両を運行する

5 グリーンスローモビリティ

・「グリーンスローモビリティ」と呼ばれるゴルフカート等を改良した電動の小型の乗り物などが、地域内の目的地まで走行します



実 施 例	実施主体	地域住民グループ(車両は市が用意)
	使用車両	ゴルフカート等を改良した電動車両で、時速20km未満で公道を走る4人乗り以上のモビリティ
	利用時間	予約運行
	利用料金	無償、充電に要する費用を行政又は地域が負担
	概要	「グリーンスローモビリティ」が坂を往復し、地域の住民を目的地まで移送する

(参考) 住民主体の地域内移送支援

・地域福祉の観点から、ボランティアな活動として、住民が主体となった互助的な地域内移送支援を実施します



実 施 例	実施主体	地域住民グループ
	使用車両	地域から提供を受けた自家用車
	利用時間	週2～3日の特定の時間
	利用料金	ガソリン代等の実費相当額
	概要	地域内の住民がボランティアで活動できる範囲において、無償で移送支援を行う

6 交通の困りごとと解決に向けて

●地域をよく知るみなさまが主体的に取り組むことが大切です

・困りごとを解決するためには、地域の実情や課題をよく知る地域のみなさまが主体的に取り組む、交通手段を利用することで地域の足として守っていくことが大切です。

本市は、このようなみなさまの取組をバックアップしていきます。

平塚市

- ・関係機関との調整やバックアップ
- ・地域の皆様が相談しやすい環境づくり
- ・必要に応じて財政的支援を行う

交通事業者

- ・公共交通の維持や、場合によってはバス路線の再編
- ・場合によってはコミュニティ交通などの運行委託を受ける
- ・地域内交通や運行に係る協議



地域のみなさま

- ・公共交通の利用
- ・地域の交通の需要を把握
- ・バス停位置などの地域内での意見調整や合意形成
- ・地域内交通の検討や取組の主体となる



冊子版では、みなさまの交通に関するお悩みに対する取組や支援を様々な観点からご紹介しています。

様々な交通手段の内容やその手段が適している地域についてまとめています。

どの交通手段がご自身の地域に適しているか検討する際にご利用ください。

[詳しくは冊子版をご覧ください](#)